

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成22年1月7日(2010.1.7)

【公表番号】特表2009-515515(P2009-515515A)

【公表日】平成21年4月16日(2009.4.16)

【年通号数】公開・登録公報2009-015

【出願番号】特願2008-539502(P2008-539502)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 N 15/02 (2006.01)

A 6 1 L 27/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 35/12 (2006.01)

A 6 1 K 35/48 (2006.01)

A 6 1 K 35/30 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 N 5/00 B

C 1 2 N 15/00 B

A 6 1 L 27/00 U

A 6 1 P 43/00

A 6 1 K 35/12

A 6 1 K 35/48

A 6 1 K 35/30

A 6 1 K 48/00

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月13日(2009.11.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

細胞を M E K 阻害剤で処理することを含む、体細胞を再プログラム化する方法。

【請求項 2】

体細胞が哺乳動物細胞である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

哺乳動物細胞がマウスまたはヒトのものである、請求項 2 記載の方法。

【請求項 4】

細胞がインビトロで再プログラム化される、請求項 1 記載の方法。

【請求項 5】

細胞が神経幹細胞である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 6】

M E K 阻害剤が M E K 1 阻害剤である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 7】

M E K 阻 害 剤 が P D 1 8 4 3 5 4 で あ る 、 請 求 項 1 記 載 の 方 法 。

【請求項 8】

細胞が N a n o g を 内 在 的 に 発 現 す る 、 請 求 項 1 記 載 の 方 法 。

【請求項 9】

N a n o g を 内 在 的 に 発 現 す る 細胞 における N a n o g の 発 現 を 上 方 調 節 す る 方 法 で あ っ て 、 細胞 を M E K 阻 害 剤 で 処 理 す る こ と を 含 む 方 法 。

【請求項 10】

細胞が哺乳動物である、請求項 9 記載の方法。

【請求項 11】

哺乳動物細胞がマウスまたはヒトのものである、請求項 10 記載の方法。

【請求項 12】

細胞が神経幹細胞である、請求項 9 記載の方法。

【請求項 13】

M E K 阻 害 剤 が P D 1 8 4 3 5 2 で あ る 、 請 求 項 9 記 載 の 方 法 。

【請求項 14】

哺乳動物の体細胞の核を哺乳動物のレシピエント細胞に移植して核移植細胞を形成させ、次いで前記核移植細胞を M E K 阻 害 剤 で 処 理 す る こ と を 含 む 、 核 移 植 の 方 法 。

【請求項 15】

レシピエント細胞が卵母細胞である、請求項 14 記載の方法。

【請求項 16】

レシピエント細胞が除核された卵母細胞である、請求項 14 記載の方法。

【請求項 17】

核移植細胞から生きた非ヒト動物を得ることをさらに含む、請求項 14 記載の方法。

【請求項 18】

核移植細胞から多能性幹細胞の培養物を得ることをさらに含む、請求項 14 記載の方法。
。